



コラム

続 これ なーんだ？

写真の出土品は、古代の遺跡から見つかりました。さて、何に使った道具でしょうか？



(第26号のコラムより)

前号(第26号)のコラム「これなーんだ？」で紹介した「発火具」について、説明を加えます。

(a) を火打金、(b) を火打石と言います。火打石の角に、火打金を打ち付けることにより、火花を火口(綿などの燃えやすい物)に飛ばし、火種を作りました。江戸時代は、そこに、「つけ木」(板をうすくけずった先にイオウを塗った物=マッチのような物)を当てて炎にしていた。玄関で「カチカチッ！」と行う「厄よけの儀式」は、「切り火」と言い、火にはお清めの力があると信じられています。

火打金の国内最古の出土例は、古墳時代にさかのぼり、平安時代から室町時代にかけて増加します。江戸時代になると、形の種類も増え、最も盛んに使用されましたが、明治時代になってマッチの登場により、すっかり影を潜めました。なお、マッチは、6世紀に中国で発明され、19世紀前半のイギリスで今の形になったと言われています。



お知らせコーナー

平成14年度の主な行事予定

No	行事名	行事の概要	開催日	会場	対象者	参加費	備考	担当課
1	発掘調査の現地説明会	当センターが平成14年度に実施する発掘調査の成果を、現地において一般公開します。	未定 (決定次第お知らせします)	発掘調査現場	一般	無料	最寄りの駅からの送迎あり	調査課
2	千葉県遺跡調査研究発表会(第18回)	千葉県における埋蔵文化財発掘調査の最新の成果を発表し、これを展示して紹介します。	H.15.1.19.(日)	千葉市文化センター	一般	無料	千葉県文化財法人連絡協議会主催	企画課
3	「土器」と古代「宅配便」	実物の土器・石器などを学校等に貸出し、授業等に活用してもらう企画です。体験学習の支援も行い、出前授業や、講座を担当する場合もあります。	貸出期間は、2週間程度から1年間以内(更新可能)	—	県内の学校及び社会教育施設	無料	土器・石器のセットの搬出入は、原則としてセンターが行います。	資料課
4	平成14年度出土遺物巡回展 —房総発掘ものがたり—	センターと県内地区文化財センターが調査した遺跡の中で注目される遺跡を選び、旧石器時代～中世の出土品を県内9博物館で巡回展示します。	H14.6.15.(土)～H14.7.14.(日) H14.7.20.(土)～H14.8.18.(日) H14.8.24.(土)～H14.9.23.(月) H14.9.28.(土)～H14.10.20.(日) H14.10.26.(土)～H14.11.24.(日) H14.11.30.(土)～H14.12.23.(月) H15.1.5.(日)～H15.2.2.(日) H15.2.8.(土)～H15.3.9.(日) H15.3.15.(土)～H15.4.20.(日)	浦安市郷土博物館 県立大根根博物館 県立房総風土記の丘市立市川考古博物館 八千代市立郷土博物館 松戸市立博物館 県立関宿城博物館 県立上総博物館 県立安房博物館	一般	無料	会期中の関連企画は、各館にお問い合わせください。	資料課

*上記の予定は、変更になる場合もありますので、最新の情報(広報紙、チラシ、ポスター、ホームページなど)でお確かめください。

*行事内容についてのお問い合わせは、各担当課までお願いします。TEL 043-422-8811(代表)

その他・一般公開

No	公開事業	公開の概要	公開日	場所	対象者	費用	備考	担当課
1	展示室の公開	センター保管資料の一部を展示し、一般公開しています。	土・日・祝日・年末年始を除く平日	本部展示室	一般	無料	開室時間／9:30～16:30	資料課
2	図書室の利用	県内を始めとして、全国の埋蔵文化財発掘調査報告書約3万冊、考古学関係の本・図録・雑誌・研究紀要等約3万5千冊が閲覧できます。	土・日・祝日・年末年始を除く平日	本部図書室	一般	無料	開室時間／9:00～17:00	図書室

千葉県文化財センター・ホームページ 公開中

センターの仕事や行事予定と県内の埋蔵文化財についての情報・知識を、インターネット上で公開します。

URL/www.chibaken-bunkazai-center.or.jp

■表紙写真の説明／君津市鹿島台遺跡。中央の2本の溝は、環濠の一部。周囲は、竪穴住居跡。

房総の文化財

VOL.27

平成14年2月28日

財団法人 千葉県文化財センター

〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2

TEL 043-422-8811(代)

FAX 043-422-8850

www.chibaken-bunkazai-center.or.jp

ISSN 0919-0848
Bōsō no bunkazai



CONTENTS

発掘調査速報	君津市鹿島台遺跡
遺物紹介コーナー	歴史を秘めた「おもり」
遺跡今昔物語	古代の遺跡と矢那川ダム
埋文アラカルト	コラム・お知らせコーナー

発掘調査速報

弥生時代から古墳時代の大集落ー君津市鹿島台遺跡ー

鹿島台遺跡は、君津市の市街地から2.5kmほど山側に入った、鹿野山と小糸川を望む標高40mから70mの台地上にあります＝表紙写真＝。館山自動車道の建設に先立ち、平成12年度から発掘調査が行われています。途中経過ですが、建て替えのため、幾重にも重なった250軒以上の竪穴住居跡や古墳などが見つかり、多量の遺物も出土しています。

北関東地方との交流がうかがえる遺物も出土しています。また、当時の墓として、方形周溝墓や類例の少ない壺棺再葬墓（人骨を壺＝写真1＝に入れて再び埋葬したお墓）も見つかっています。

古墳時代中期以降、集落はほかに移動したと見られ、この地は豪族たちの墓地となりました。古墳を調査した結果、一か所の埋葬場所から3,700個もの石製の白玉＝写真2＝が出土し、注目されています。

背景写真／現地説明会のようす（平成13年10月）



写真1
再葬墓から出土した壺棺（弥生時代中期）



写真2
一つの墓から、3,700個もの出土は、大変珍しいことですが、当時の想像として、白玉を首飾り状にしてみました（古墳時代）



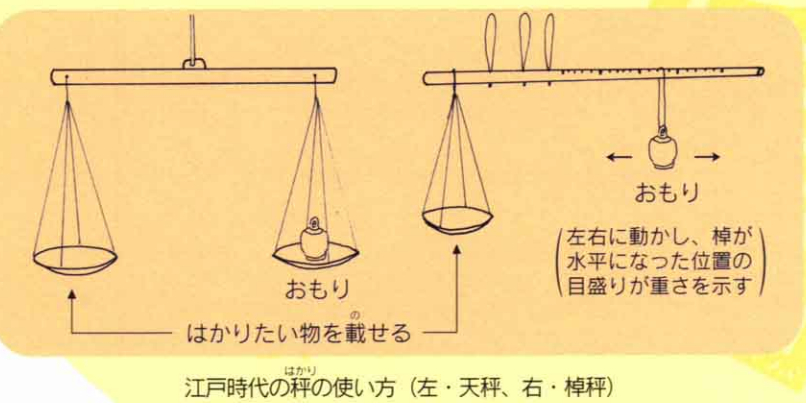
遺物紹介コーナー
歴史を秘めた「おもり」

私たちは日常生活で、「重さ」をはかる機会がたびたびあります。現代では、デジタル表示の「電子ばかり」で瞬時に正確な重さがはかれますが、「重さ」をはかる道具＝「はかり」には、実は多くの種類と長い長い歴史があるのです。

このうち、「天秤」「棹秤」＝図＝は、世界中で古くから使われている道具です。日本では、大宝元年（701年）制定の大宝律令に「はかり」についての「きまり」が書かれています。それによると、地方の役所に重さの基準となる「様」という銅製の計器を配布し、毎年役所で「はかり」を検定して使うように定めています。「はかり」は貨幣の基準になったり、税や取引の基本になる物なので、国家でも特に重要な道具と考えて制度を統一しました。

今回紹介するのは、県内の遺跡から出土した「おもり」です＝写真＝。④は平安時代の「おもり」で、この時代の「おもり」が発見されるのは全国でも珍しいことです。⑤と⑥は、戦国時代（15世紀ころ）の「おもり」です。県内の遺跡から出土した「はかり」関係の遺物は、今のところ、これらの「おもり」を含めて4点だけです。

この「おもり」で、どのような人が、何ををはかっていたのでしょうか。小さな「おもり」に「歴史の重さ」が秘められています。



【④のおもりはレプリカ／（財）山武郡市文化財センター所蔵。⑤・⑥は、当センター保管】

- 「おもり」が出土した遺跡とおよその重さ
- ④＝大網白里町一本松遺跡（107g）
 - ⑤＝木更津市笹子城跡（58g）
 - ⑥＝四街道市館ノ山遺跡（95g）
- 全て、青銅製。

遺跡
今昔
物語

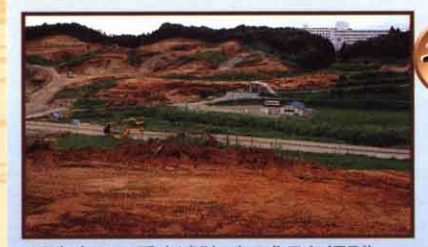
木更津市二重山遺跡・久野遺跡
ー古代の遺跡と矢那川ダムー

矢那川ダムは、県の「かずさアカデミアパーク」（木更津市所在）の開発に伴い、木更津市を流れる矢那川の流水を管理するために築かれました。ダムの建設に当たり、痩せ尾根に立地する、二重山と久野の2遺跡が発掘調査されました。

二重山遺跡は、平成2年度と5年度に調査が行われ、奈良時代の製鉄遺跡が見つかりました。ここは、鉄を作る工場のよう場所で、砂鉄から鉄を作る製鉄炉や、できた鉄を板状にする鍛冶炉のほか、工場で使う燃料用の炭を焼く炭焼き窯なども見つかりました。

当時、矢那川流域は、原料の砂鉄や燃料となる原木を豊富に産出したため、二重山遺跡のような製鉄所が集中する「工場地帯」であったことがうかがえます。

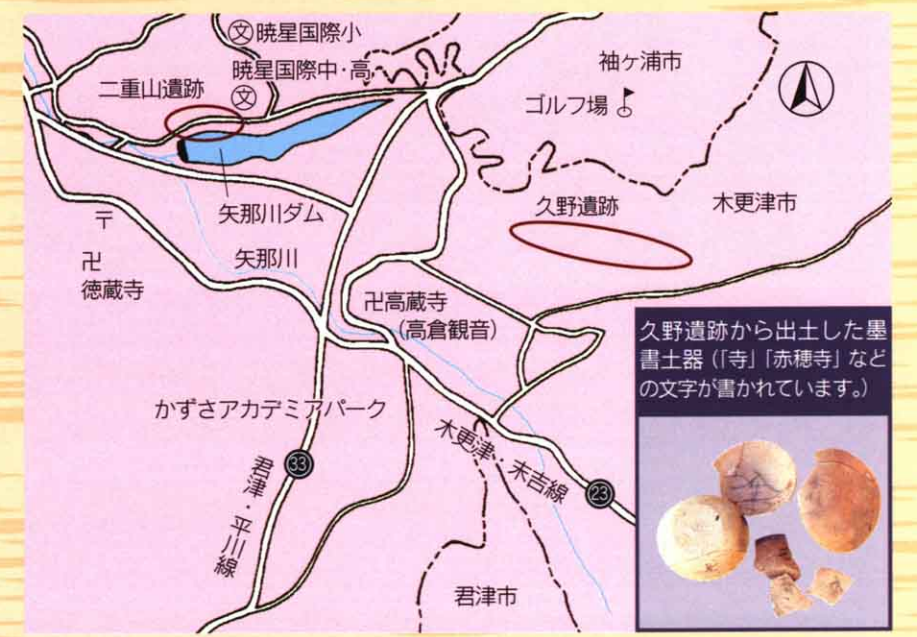
一方、久野遺跡の調査は平成6年度と7年度に行われ、奈良時代から平安時代（8世紀後半～10世紀前半）の基壇（建物の基礎）や掘立柱建物跡などが見つかりました。また、墨書土器（「赤穂寺」・「佛（仏）」・「大般若」など）や瓦がたくさん出土したことから、遺跡はお寺の跡と考えられています。



調査中の二重山遺跡（平成5年撮影）



矢那川ダム（左方が二重山遺跡。右奥は、学校／平成13年撮影）



日本の時代区分表		BC(紀元前)		AD(紀元後)	
旧石器時代		縄文時代		弥生時代	
				古代	中世
				古墳時代	鎌倉時代
				平安時代	室町時代
				飛鳥時代	江戸時代
				奈良時代	明治
				西暦 710	昭和
				794	平成
				1192	安土・桃山時代
				1333	大正
				1573	
				1603	
				1668	

(注)日本の旧石器時代の始まりについては、現在、再検討されています。よって、本紙では、新たな見解が発表されるまで、年代の記載を中止いたします。

約12000年前 (この表は、100年を5mmで表現してあります。したがって、縄文時代は約50cmにもなります。) 約2300年前